

## 第4節 二酸化硫黄（SO<sub>2</sub>）

**発 生 源** 硫黄酸化物（SO<sub>2</sub>またはSO<sub>3</sub>）は、火山活動等の自然現象によるもののほか、石油・石炭の燃焼、金属の精錬、自動車の走行など、人間の社会的活動に伴って大気中に排出される。

SO<sub>2</sub>の排出は、主に化石燃料に含まれる硫黄（S）分の燃焼によるものである。

**環 境 濃 度** 県内のSO<sub>2</sub>濃度は、年平均値の全局平均でみると、測定を開始してから最もピークとなった昭和42年度以降、重油の低硫黄化、排煙脱硫装置の設置、燃料転換等の対策で年々減少してきたが、昭和55年度以降はほぼ横ばいで推移した。

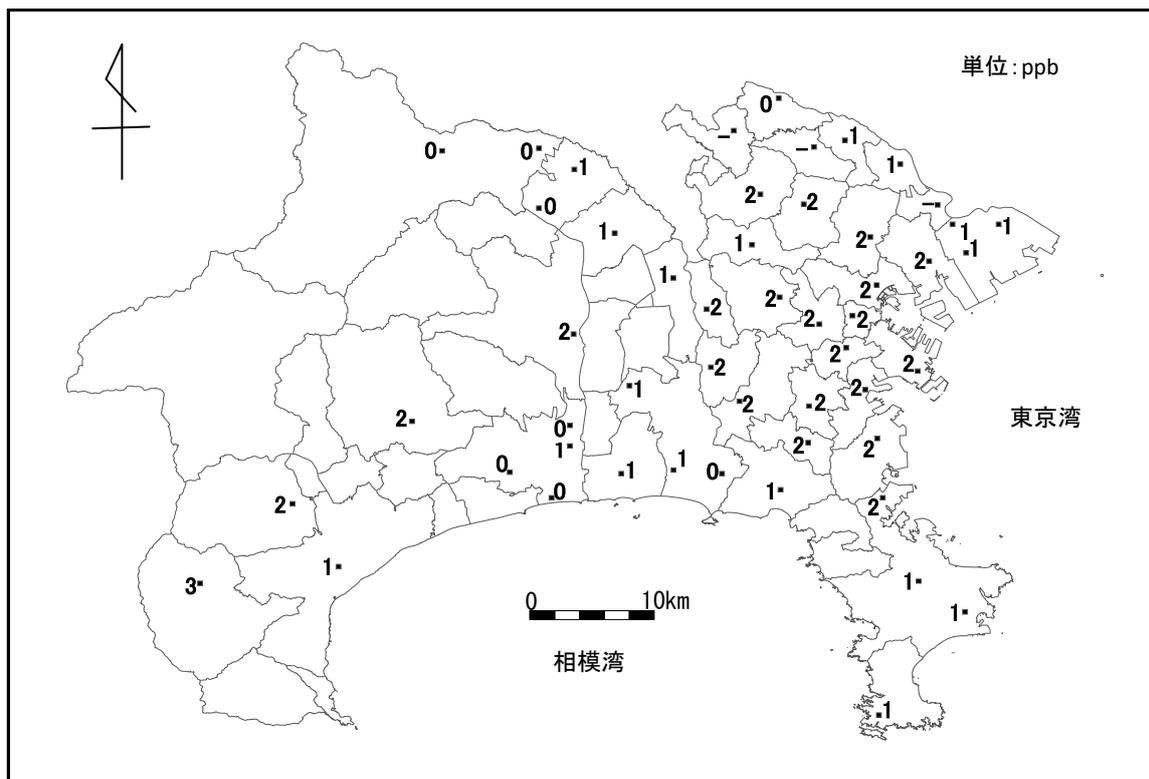
しかし、ディーゼル車の燃料である軽油中のS分が、平成4年度から徐々に低下し、平成17年1月からは10ppm以下となり、また、ガソリンのS分も10ppm以下となったこと、さらに、平成7年度以降、ガソリンや軽油使用量が減少したことから、平成12、13年の三宅島火山の影響、平成27年の箱根山大涌谷周辺の火山活動の影響で年平均値が上昇したことを除き、環境濃度は低下している。

**測 定 方 法** 紫外線蛍光法又は溶液導電率法により行う。なお、各測定局で使用されているものは、紫外線蛍光法のみである。

**紫外線蛍光法** 試料大気に比較的波長の短い紫外線を照射すると、これを吸収して励起したSO<sub>2</sub>分子が基底状態に戻るときに蛍光を発する。この蛍光の強度を測定することにより、試料大気中のSO<sub>2</sub>の濃度を求める。

**溶液導電率法** 試料大気を吸収液（硫酸酸性の過酸化水素水溶液）中に通じると、大気中のSO<sub>2</sub>は過酸化水素水によって酸化され、硫酸となって捕集される。硫酸の生成量に応じて吸収液の導電率が増加することを利用して、SO<sub>2</sub>濃度を測定する。

#### 4. 1 SO<sub>2</sub>濃度の地域分布（一般環境大気測定局の年平均値）

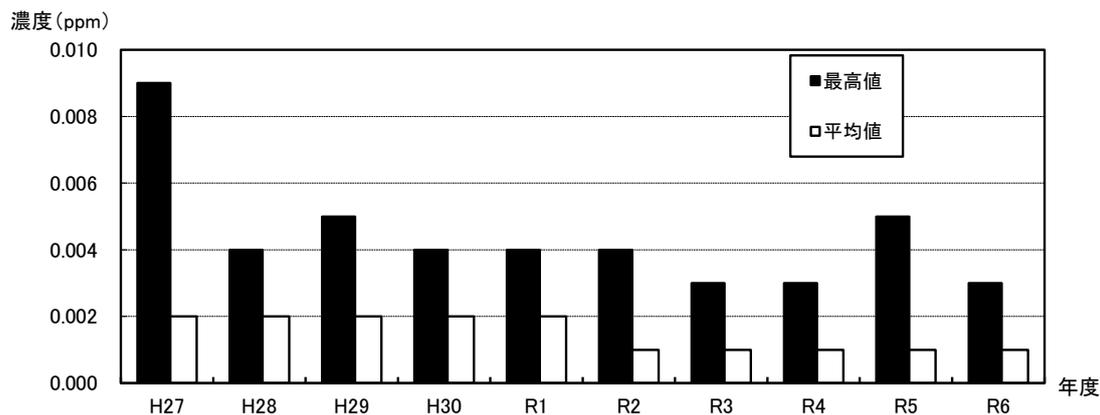


上図の数値は、一般環境大気測定局におけるSO<sub>2</sub>の測定時間が、環境省が年平均値を算出するために必要と定める年間6000時間以上ある測定局（有効測定局）の年平均値を示す。

長期的評価による環境基準は全局で達成している。  
 (環境基準は第I章 ページ4、5参照)

## 4. 2 SO<sub>2</sub>濃度の推移（年平均値）

一般環境大気測定局の局別年平均値から求めた全局の最高値、平均値を図及び表に示す。なお、最低値は、平成17年度から0.000ppmとなっている。



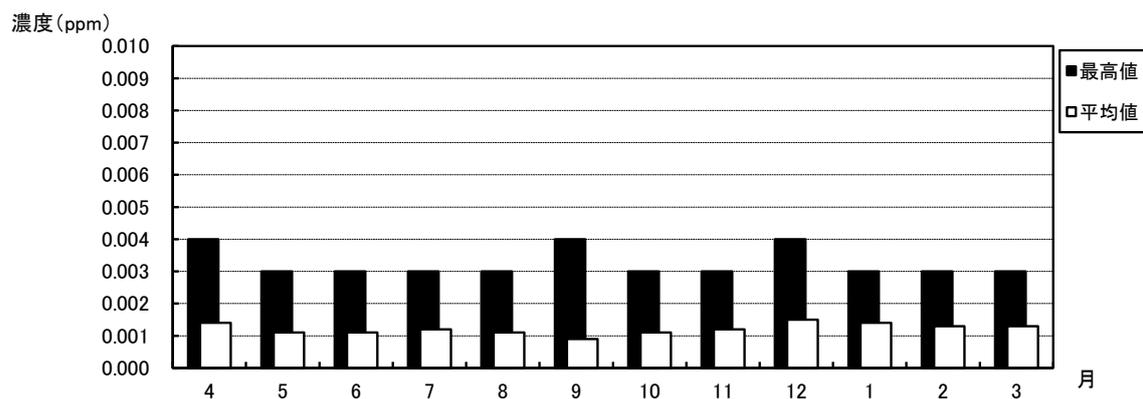
(単位：ppm)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
最高値	0.009	0.004	0.005	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.005	0.003
平均値	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
測定局数	51	51	51	51	51	50	52	52	51	48

(最低値は、H17年度から0.000ppm)

## 4. 3 SO<sub>2</sub>の月別濃度（月平均値）

一般環境大気測定局の局別月平均値から求めた全局の最高値、平均値を図及び表に示す。



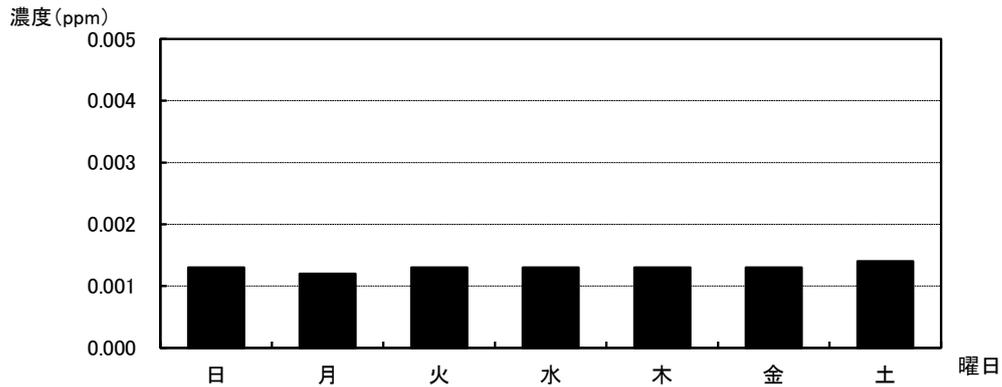
(単位：ppm)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
最高値	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003	0.003	0.003
平均値	0.0014	0.0011	0.0011	0.0012	0.0011	0.0009	0.0011	0.0012	0.0015	0.0014	0.0013	0.0013

(最低値は、0.000ppm)

#### 4. 4 SO<sub>2</sub>の曜日別濃度（年平均値）

一般大気環境測定局の年間測定結果から、曜日別に求めた全局の平均値を図及び表に示す。

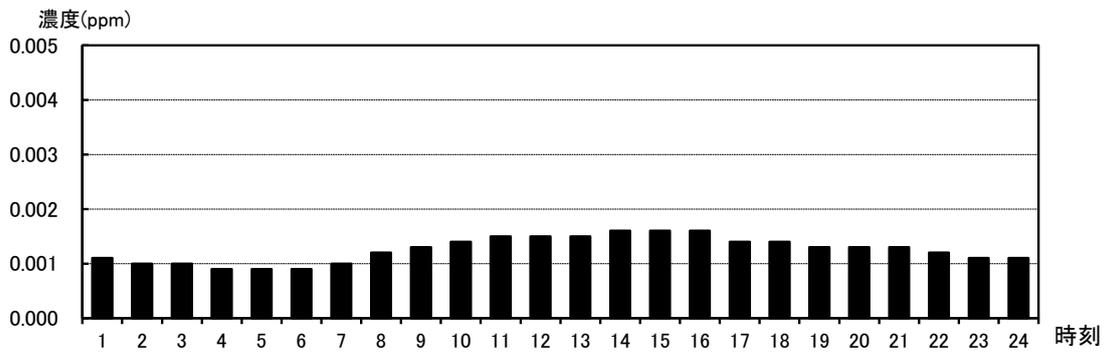


(単位：ppm)

曜日	日	月	火	水	木	金	土
一般環境大気測定局	0.0013	0.0012	0.0013	0.0013	0.0013	0.0013	0.0014

#### 4. 5 SO<sub>2</sub>の時刻別濃度（年平均値）

一般環境大気測定局の年間測定結果から時刻別に求めた全局の平均値を図及び表に示す。



(単位：ppm)

時刻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一般環境大気測定局	0.0011	0.0010	0.0010	0.0009	0.0009	0.0009	0.0010	0.0012	0.0013	0.0014	0.0015	0.0015

時刻	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
一般環境大気測定局	0.0015	0.0016	0.0016	0.0016	0.0014	0.0014	0.0013	0.0013	0.0013	0.0012	0.0011	0.0011

#### 4. 6 SO<sub>2</sub>濃度の測定局順位（日平均値の2%除外値）

各測定局における日平均値の2%除外値（環境基準の長期的評価濃度）の順位及び1時間値が0.1ppmを超えた時間数（短期的評価濃度）、日平均値が0.04ppmを超えた日数（長期的及び短期的評価濃度）を測定局ごとに次に示す。

##### (1) 一般環境大気測定局

順位	局名	日平均値の 2%除外値 (ppm)	1時間値の 0.1ppm 超過時間数	日平均値の 0.04ppm 超過日数	前3年度順位		
					R5	R4	R3
1	箱根町宮城野	0.010	0	0	1	2	2
2	横須賀市追浜行政センター	0.007	0	0	2	1	1
3	中区本牧大里町	0.004	2	0	3	3	4
	磯子区磯子	0.004	0	0	5	3	3
5	鶴見区本町通	0.003	0	0	5	3	4
	南区南太田	0.003	0	0	5	3	4
	神奈川区広台太田町	0.003	0	0	5	3	7
	泉区和泉中央北	0.003	0	0	5	8	7
	川崎区役所大師支所仮庁舎	0.003	0	0	5	8	7
	金沢区富岡東	0.003	0	0	5	8	7
	西区平沼	0.003	0	0	5	8	7
	保土ヶ谷区桜ヶ丘	0.003	0	0	5	8	7
	港北区大豆戸町	0.003	0	0	5	8	7
	厚木市中町	0.003	0	0	5	8	7
	栄区犬山町	0.003	0	0	5	8	7
	港南区野庭町	0.003	0	0	5	8	7
	秦野市役所	0.003	0	0	5	8	21
	都筑区茅ヶ崎中央	0.003	0	0	5	25	21
	旭区鶴ヶ峰	0.003	0	0	24	8	7
	青葉区市ヶ尾町	0.003	0	0	24	8	7
	戸塚区汲沢	0.003	0	0	24	25	7
22	三浦市城山	0.002	0	0	3	25	21
	小田原市役所	0.002	0	0	5	8	21
	横須賀市久里浜行政センター	0.002	0	0	5	8	21
	川崎市役所第3庁舎	0.002	0	0	5	25	21
	平塚市大野公民館	0.002	0	0	5	25	43
	瀬谷区南瀬谷	0.002	0	0	24	8	7
-	幸スポーツセンター	(0.002)	0	0	24	8	21
	国設川崎（田島）	0.002	0	0	24	25	21
	相模原市役所	0.002	0	0	24	25	21
	大和市役所	0.002	0	0	24	25	21
	緑区三保町	0.002	0	0	24	25	21
	中原区地域みまもり支援センター	0.002	0	0	24	25	21
	高津区生活文化会館	0.002	0	0	24	25	21
	南足柄市生駒	0.002	0	0	24	25	21
	茅ヶ崎市役所	0.002	0	0	24	25	21
	横須賀市池上コミュニティセンター	0.002	0	0	24	25	21
-	麻生区弘法松公園	(0.002)	0	0	24	25	21
	鎌倉市役所	0.002	0	0	39	25	21
38	相模原市橋本	0.001	0	0	39	8	21
	藤沢市明治市民センター	0.001	0	0	39	25	21
	藤沢市役所	0.001	0	0	39	25	21
-	宮前平小学校	(0.001)	0	0	39	44	43
	藤沢市御所見小学校	0.001	0	0	39	44	43
	多摩区登戸小学校	0.001	0	0	39	44	43
	平塚市花水小学校	0.001	0	0	39	44	43
	相模原市相模台	0.001	0	0	39	44	43
	相模原市田名	0.001	0	0	39	44	43
	相模原市津久井	0.001	0	0	39	44	43
	平塚市神田小学校	0.001	0	0	39	44	43
	平塚市旭小学校	0.001	0	0	39	44	43
-	藤沢市湘南台小学校	-	0	0	39	25	21

（ ）内数値は、年間における測定時間が6000時間に満たない測定値を示す。  
-は未測定を示す。

(余白)